

——今年も町に活気が溢れる
新茶シーズンが到来しました——

献茶式

町茶業振興協議会は、4月19日に今年の川根茶の発展を祈念する献茶式を開催。

県茶手採保存会川根支部が前日に仕上げた今年の新茶を奉納しました。



今年も活躍

「お茶摘みだけは、元気に来てるよ」と笑う皆さん。4月28日、相藤農園（藤川区）では、ベテランのお茶摘みさんが、変わらぬ手つきで、全国茶品評会の出品茶の摘採を行いました。



有志で手摘み

鈴木茶苑（徳山区）では、4月29日に有志を募って手摘みを実施。

入退場自由のハードルの低さに、子ども連れの参加者も多く、和気あいあいとした楽しいお茶摘み風景が見られました。



もえぎ色きらめく三津間
——8軒でつくる、今年の新茶



三津間共同製茶工場の設備

この工場では、90kgを15分に1回ペースで蒸機に投入。蒸機投入から約4時間でお茶が完成する。



乗用摘採機で茶の収穫をする坂本組合長

組合員が生葉を投入する様子



「摘みどきにまともて採むことが大切」と語るように、組合員が連携しながら一気に製茶を進めています。また、「乗用摘採機なら一人でも作業ができる」と、省力化の工夫も進められています。

一方で、組合員は現在8軒と、当初から3分の1程度に減少しており、担い手の高齢化が課題となっています。「続けられる形にしていくなかで大切」としながらも、「この時期だけでも関わってくれる人がいれば嬉しい」と、新たな担い手にも期待が寄せられています。

品質の良い荒茶製造には、摘み取る時期と加工の速さが重要です。「摘みどきにまともて採むことが大切」と語るように、組合員が連携しながら一気に製茶を進めています。また、「乗用摘採機なら一人でも作業ができる」と、省力化の工夫も進められています。

今年の新茶は天候にも恵まれ、順調な出来となりました。坂本政司組合長は「春先の雨で芽が一気に伸び、霜の被害も無かった」と話し、品質の良さに手応えを感じています。

適期摘採と連携が生む、
——今年の新茶

今月の表紙

徳山区・鈴木茶苑でのお茶摘みの様子
「茶畑の畝間がひんやりして気持ちいい♪」

